

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年9月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175700426		
法人名	有限会社 介護ケア道央		
事業所名	グループホーム めくもり		
所在地	〒068-0115 北海道岩見沢市栗沢町最上293番地1 (電話) 0126-34-2322		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月19日	評価確定日	平成21年9月10日

## 【情報提供票より】 (平成21年8月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	7月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	19 人	常勤16人,	非常勤3人,	常勤換算13.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	15,000~19,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要 (8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩見沢市立栗沢病院、町立長沼病院、栗山赤十字病院、三嶋歯科医院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、閑静な住宅地に隣接し商店や公園なども近く、かつ自然豊かな場所に立地している。広い敷地を活用し、畑作りや外気浴など、四季折々の風景を楽しめる。建物内には季節感のあるものや行事の写真を飾っており、家庭的な雰囲気を作り出している。また、地域の行事や活動へ参加し、地域との関わりを重視した運営をしている。理事者は、高齢者に安心して元気に生活してもらおうと、地域貢献の意味でグループホーム事業を展開している。職員は、理念に基づき、利用者本位にサービスを提供しており、外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題に対して、新規採用職員教育、外部研修の参加、研修内容の共有化、ミーティングの時間を活用するなど、内部研修の充実に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価から、要介護状態悪化防止のための自立支援と、外出や散歩による機能低下防止を考えている。自己評価は、全職員で取り組みを行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	約2ヶ月ごとに運営推進会議が開催されており、町内会長、民生委員、利用者、利用者家族、市担当職員が出席している。議題は、事業運営状況、行事予定や事業運営報告、災害時の支援要請となっている。市の担当者とは、情報交換や相談等により連携を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2ヶ月に1回事業所便りを発行し、利用者の生活記録や写真を送付して、普段の暮らしぶりを説明している。病状の変化についても、その都度報告している。苦情の対応方法は、利用開始時に重要事項説明書で説明し、玄関に掲示している。また、意見箱を設置したり、家族の来訪時には希望や意見等を確認している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、小学校の運動会等、地域の行事に積極的に参加している。事業所の行事への参加を、家族や地域に呼びかけたり、道路の清掃活動を定期的に行うなど、地域との関わりを大切にしている。また、外出の機会をなるべく増やすようにしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、「安心して地域に暮らしていける様に」とあり、地域との関わりを重視した運営をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所内の見やすい場所に掲示しており、ミーティング、カンファレンスで管理者と職員が話し合い、理解を深め、日々の支援に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、小学校の運動会等、地域の行事に積極的に参加している。事業所の行事への参加を、家族や地域に呼びかけたり、道路の清掃活動を定期的に行うなど、地域との関わりを大切にしている。また、外出の機会をなるべく増やすようにしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での課題に対して、新規採用職員教育、外部研修の参加、研修内容の共有、ミーティングの時間を活用するなど、内部研修の充実に取り組んでいる。今回の自己評価から、要介護状態悪化防止のための自立支援と、外出や散歩による機能低下防止を考えている。自己評価は、全職員で取り組みを行った。	○	評価の活用方法について再確認するとともに、自己評価による課題の抽出、改善への取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月ごとに運営推進会議が開催されており、町内会長、民生委員、利用者、利用者家族、市担当職員が出席している。議題は、事業運営の状況、行事予定などの報告、災害時の支援要請となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、情報交換や相談等で連携を図っている。	○	地域密着型サービスは、市町村の理解や支援が必要であることから、事業所から積極的な情報提供を行い、考え方や状況を共有できるような働きかけが期待される。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回事業所便りを発行し、利用者の生活記録や写真を送付して、普段の暮らしぶりを説明しており、家族の来訪時には、近況を報告している。病状の変化については、その都度報告している。また、金銭管理は、本人管理とし、出納状況を記録して、家族が確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の対応方法は、利用開始時に重要事項説明書で説明し、玄関に掲示している。また、意見箱を設置したり、家族の来訪時には希望や意見等を確認している。要望、意見があったときは、速やかに話し合い、解決に向けて対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ない。新規採用職員が入ったときは、利用者となじみの関係ができてから支援するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員には、指導担当者を決めて1ヶ月以上かけて指導している。道や空知ブロックのグループホーム協議会の研修に参加しており、ミーティングの時間を活用し、外部研修報告による研修内容の共有化や、内部研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している事業所との合同行事など、日常的な交流を図っていて、職員の意見交換の場ともなっている。空知ブロック協議会の研修会に参加し、情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、職員が利用者の家庭を訪問したり、本人と家族が何度か見学に来るなど、なじみの関係ができるように工夫をし、十分納得した上でサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される一方の側に置かず、物事を教わったりしながら、利用者が持っている個性や能力を引き出して、共に支え合う関係作りをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や職員との会話、利用者同士の会話や表情から、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録、本人や家族の思いを受けて、サービス担当者会議で職員が意見を出し合い、介護計画を作成している。計画書は、本人と家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期の介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行っている。状態に変化が生じた場合は、情報を確認して、随時介護計画の見直しを行っている。さらに、毎月のミーティングで実施状況を確認している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて受診の支援を行っている。利用者の要望に沿った外出の支援を行うなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する、かかりつけ医を受診するための支援をしており、家族の都合がつかない場合は、事業所に対応している。緊急時対応など、医療機関と連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に事業所の方針を家族に伝えている。歩行が可能であることが、サービス利用の基準となっている。	○	今後、利用者の重度化が予想されるので、対応方法を検討していくことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの際に職員にプライバシーについて説明し、意識の向上を図っている。日々の関わりの中で、プライバシーや尊厳を損なわないよう、職員は利用者への対応を注意して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら、利用者の希望やペースをその都度大切に、買い物や散歩など、希望に沿うように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や希望に応じて、食材の買い物、調理、盛り付け、後片付け等を職員と共に行い、同じ食事を同じテーブルで、おしゃべりしながら楽しい雰囲気の中で食べている。使い慣れた茶碗や箸を使用できるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも、週2回の入浴の機会を設定しているが、一人用の浴室なので希望があればいつでも入浴ができる。入浴を拒否する場合は、時間を変えて声かけしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴と能力を把握し、利用者の意向を尊重しながら、食事の準備、野菜作り、洗濯物たたみ等の作業活動を支援している。計算や書き取りのドリル、書道を楽しんでいる利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、外食など、日常的に外に出る機会を作り、利用者の希望に応じて、職員が付き添って散歩の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には施錠せず、安全対策としてセンサーで察知できるようにしている。利用者が出かける様子がある時は、さりげなく声かけしたり、職員が付き添って外出するなど、安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や消火訓練を、消防署の指導や協力を得て年に2回実施している。緊急連絡網を整備し、災害に備えて、水や缶詰等も用意している。災害時の地域住民の協力については、運営推進会議で依頼している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行い、栄養と水分の摂取状況を把握している。栄養バランスやカロリー量については、栄養士に依頼して指導を受けている。いつでも水分が摂れるように、お茶をポットに入れて用意するなど、水分補給に関して配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には、季節の行事に合わせた飾りや、利用者の作品、事業所の行事の写真を掲示しており、家庭的な雰囲気作りに努めている。音、光、臭いなどで気になることはなく、快適な環境になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇、写真など思い出の品々を置き、居心地良く過ごすことができるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。